

「つながる。ハーベスト」第2弾

厚真町コミュニティスペースイチカラ

成田 智哉 氏



北海道のオスメのワーク施設とそこで出会いを創り出すコンシェルジュをご紹介する「つながる。ハーベスト」。その第2弾として、「イチカラ」を運営するマドラー(株)の成田智哉さんにお話をお伺いしました。



「イチカラ」ができるまで

「出身はお隣の千歳市ということですが、どの様な経緯で「イチカラ」をつくることになったのか教えて下さい。」

高校までは北海道にいて、大学で東京出て、その後トヨタ自動車に就職しました。プラジル駐在もさせていただき楽しかったのですが、30歳の誕生日を機に独立しようと思い、何も決まぬまま辞めちゃいました。ちょうど北海道胆振東部地震が発生した時期で、私自身も大都市よりも田舎で起業した方が面白いんじゃないかと考えていた時に、「厚真町ローカルベンチャースクール」を紹介いただき、地元の隣町で、地域の方々が震災もあつたけど頑張ろうとしているし、前向きな行政の方もいるから、厚真町で起業しようと思いました。

※ 官民様々な立場で、新しい価値創造にチャレンジする仲間を発掘・育成・選考するプログラム。

つながる。HUB

厚真町コミュニティスペースイチカラ

2018年9月6日に発生した北海道胆振東部地震で被災した厚真町。震災後、有志の若手メンバーが「気軽に集まれる場所があればいいな」という想いから、空き家をリノベーションしてつくった施設。Wi-Fi&電源完備でお仕事での利用も可能です◎



住所：厚真町京町1-1
HP：atsumaichikara.mystrikingly.com
※営業時間等詳細はHPをご確認ください。

厚真町へのアクセス
新千歳空港からバスで約50分、レンタカー利用で約35分。



厚真町公式キャラクター「あつまるくん」



イチカラHP

厚真町に来られる前にも、第1弾でご紹介した五十嵐さん(大人座)らと「ほっとけないどう」などの取組をされていたとお聞きしましたが、このイチカラも、人のつながりを生かして、地域の課題を解決されたいという思いでつくられたのでしょうか？

厚真に来るか決まっていなかったタイミングで、役場の方から、震災で皆の心の安住の場もなくなったので、皆が集まれる基地みたいな場所が欲しいという話をいただき、自分自身全国各地でコミュニティのハブとなる施設やコワーキングスペース等をよく活用していたので、厚真にもそういう場所が必要だと思いました。

この物件も、町の一丁目一番地で、いわば厚真のスクランブル交差点みたいな場所なんですけど、10年以上シャッターが下りていたので、ここが開くこと自体が復興につながり、地域を元気づけられるだろうと考え、遠方に住む大家さんに相談して、借りられることになりました。

地元のメンバーと一緒にチームをつくって準備を進めながら、クラウドファンディングを活用することになりました。メンバー皆で全国各地の知り合いに連絡して、何とか目標額を達成できました。内装も、建築家の方と一緒に厚真らしいものを使うように心がけていて、カウンターテーブルなどにも、震災で壊れた家の廃材を再利用したり、皆で壁や天井にペンキを塗ったりと、ほとんどDIYしました。厚真町の海岸に流れ着いた流木や、山で拾った鹿の角なども使っています。

「イチカラ」に込められた想い

「イチカラ」という名には、どういう想いが込められているのでしょうか？

震災があつて、町が厳しい状態になったので、「またイチカラから頑張ろう」ということ、あと、町の1丁目一番地をいただいているので、ここから新しいことを作っていければ良いよねということ得名付けました。

「イチカラで人と関わるときに、大切にされていることなどはありますか？」

ここは、町内のおじいちゃんやおばあちゃん、ボランティア活動の帰りに寄ってくれたり、毎週水曜日の夜は「中学生の日」ということで、中学生が勉強したり、漫画を読んだりしています。

一方で、札幌や東京から来られる方も結構います。私の会社「マドラー」にはそういった様々な方をかき混ぜるという意味があつて、普段出会わない方達の接点となればと思っています。



「イチカラ」でインタビューに応じる成田氏。目の前のカウンターテーブルにも震災で壊れた家の廃材を利用している。



地域と「つながる。」

「イチカラで生まれた人同士のつながりのエピソードがあれば教えて下さい。」

今はコロナの影響で出ていないですが、70〜80歳のおじいちゃんが肺活量を増やすために「ウェルネス吹き矢」をやりたいと言って、ダーツバーを真似て「吹き矢バー」をやろうとしています。た（笑）やりたいものを持ち寄ってくれるので、皆一緒にやったりしています。

——まさに地域とつながる拠点と言えますね。

一昨日は北大生が10人くらい来てましたし、今日この後もエンジニアのメンバーがやってきます。地域の色々な人を紹介させてもらい、普段出会わない方とつながっていきます。

私が東京や札幌にいる色んなつながりを持つ人に声をかけると、興味を持ってここに来ていただけます。そして、厚真のおじいちゃんやおばあちゃん、子ども達とつながって、それをきっかけにここで事業しようとか引越そうという動きが少しずつ出てきているから面白いなと思いますね。

——成田さんは交通事業の「ミーツ」や、「えぞ財団」での取組も行われていますが、そうした事業ともイチカラでつながることはありますか？

もついついありますね。やっていることは、全部つながっているのです。

例えば、厚真町は人口約4400人で高齢化率が約37%、そのうち半分くらいが75歳以上です。すると、移動が生

命線になる訳ですが、ただA地点からB地点に移動するのではなく、そこに若者が迎えに行くことで、ばあちゃんと呼べる存在とか、孫と思える存在など新たな知り合いをどんどんつくって、町全体で共助のビジネスをできればと考えています。

えぞ財団は北海道全体でやっています。そのメンバーはそれぞれ当麻町や月形町など、自分の町が面白くなればという想いでやっているのです。そういったメンバーとつながったり、お互いの地域のことを参考にし合っているのが良いと思います。



強みは「解像度」

マドラーの強みは、大企業とか都会のひと、テクノロジーも理解しつつ、都会の人たちが思いもよらないことを目の前で見て



町内の主婦が手作りする「紫蘇ジュース」は、イチカラで飲むことができます（500円）

いる「解像度」です。先ほども中央省庁の方とやりとりしていたのですが、東京から見る景色とこちらで見る景色にはズレがあるので。こちらが解像度を高くやっているからこそ見えている景色を提供してあげられるし、それが制度に生かされるかもしれない。だから、中央省庁や大企業、ベンチャー企業の方達も興味を持ってきてもらい、教育や福祉とかのリアルティを感じてもらえるといいなと思います。

——「解像度」を高く感じられるのも地域でつながる魅力ですね！そんな成田さんがおススメする、厚真町ならではの体験・食などを教えてくださいませんか。

いろいろありますが、皆さんの反応が良いのは馬ですね。移住者の方が馬搬といって、山で切った木などを馬で運んでいます。が、重機だと入れない場所にも入れるし、森を痛めないでサスティナブルです。

あとハスカップが有名で、「ハスカップカフェラボ」では美味しいスムージーも飲めます。イチカラは持ち込みも自由なので是非買ってきていただければ。この町には海も山も畑もあるので、僕は凄く居心地がいいです。海にいけば漁師もサーファー

つながる。ヒト

マドラー株式会社 代表 成田 智哉 氏 *MuDDier*



千歳市出身。小中高を道内で過ごし、東京大学文学部卒業後、トヨタ自動車入社。6年間の勤務後、ブラジル駐在を経験。30歳の誕生日にアマゾン川で独立することを決める。

トヨタ退職後、様々な地域・人とつながりを持つ中で、「厚真町ローカルベンチヤースクール」を紹介され、震災後の厚真町での起業を決意。「イチカラ」を運営するマドラーの他、地域発Maasの「ミーツ(株)」、北海道をもっと元気にする活動に取り組む「(一財)えぞ財団」等の代表・団長等を務めている。

厚真町のおススメ!

ハスカップカフェラボ



厚真町でハスカップを生産する山口農園が「美味しいハスカップをたくさんの人に味わってもらいたい」との想いから開いたお店。

生地に「竹炭パウダー」を入れ、しっとりした食感に仕上げ、ハスカップとも相性抜群の『黒いクレープ』や、酸味がきいたさっぱり味の『ハスカップスムージー』などが味わえます。

※営業時間等の詳細は、HPをご確認ください。



もいるし、小林農園さんという卵農家では「FORT by THE COAST」というオシャレなダイナーをやっていて、フレッシュな卵をつかった料理が食べられて素敵です。

——ありがとうございます！最後にこれからイチカラに来られる人にメッセージをお願いします。

うちのコースターは、地元の木材で自作しています。コースターに刻んでいる「96%」は、胆振東部地震の発生日である9月6日を忘れない、そして残りの4%はユーザーさんと触れあうことで100%になるという意味を込めています。是非いろいろコラボしたり、つながって、新しいことが出来たらいいなと思います。

——次回「SAPPORO Incubation Hub DRIVE」にお伺いします！お楽しみに！